青春スクロール 私の母校

愛知県立旭丘高校①（名古屋市東区）

地域のリーダー育てた自由な校風

加藤千麿さん。文学好きは、中学時代の恩師に福沢諭吉の「福翁自伝」などたくさんの本を薦められたことがきっかけだったという

愛知県の公立トップ校。1877（明治10）年に愛知県中学校として開設された。99年に愛知県第一中学校と改称、1948年に名古屋市立第三高等女学校と統合されて、共学の旭丘高校となった。

地域社会の繁栄への奉仕を社是とする名古屋銀行の会長、加藤千麿さん（78、56年卒）は、同窓会「鯱光会」の会長を務める。「一中の流れをくんで、バンカラな校風でした。今もその雰囲気は残っていると聞きます」

当時、県内の高校生は明治時代の書生のような歯の高い「薩摩下駄」を履くことは禁じられていたが、旭丘は校長が独断で許した。「ただし、冬でもはだしで履け、と。学生服の下もランニングシャツ1枚ですよ」

優秀な生徒ばかりで自分の限界を感じることもあった。だが、廊下に成績を貼り出されると、やる気になった。

文学に親しみ、慶応大学文学部へ進むが、卒業後は法学部に学士入学して商法や会社法を学んだ。東海銀行を経て、父が創業した現在の名古屋銀行に入行。89年に頭取になった。

仕事は地域と深く結びつく。「経営者になった同窓生もたくさんいます。節目節目で意見を求め、会って食事したいと今でも思うのは、刺激し合って一緒に勉強した、高校の仲間です」

中部地方で中日新聞を、首都圏で東京新聞を出す中日新聞社。その創業家に生まれ、現在東京本社代表の大島宇一郎さん（51、83年卒）は高校時代、将来については「親の後をただついていくのは嫌だな、と思っていたのかな。触れたくないというか、あえて考えないようにしていた。毎日楽しく過ごすことだけ考えていました」。

先輩たちが運動して、私服での通学が認められていた。背伸びして繁華街の栄にも遊びに行った。多少羽目を外したことが知られても、先生は何も言わない。勉強も強制されない。「生徒への信頼を感じて、結局全体としてはちゃんとした生活をしてしまった」と笑う。

部活は写真部。中学時代から「撮り鉄」だったこともあるが、運動部は練習が厳しく、勉強と両立できる自信がなかったためだ。「勉強しなくてもできるタイプではない、と自覚してましたから」

早稲田大学政治経済学部を卒業後、「デスクワークは性に合わない」と中日新聞の記者に。「物おじせず、いろいろな人の中に入っていけるのは、旭丘で自由にのびのびやらせてもらったからだと思います」

（編集委員・吉田由紀）

大島宇一郎さん。カメラの腕前は高校時代、写真雑誌に入賞したことも